

第百五十話話 一応の総括所見

思いつくままに、テーマは特に定めずに書き始めて何時の間にか百四十話を超えてしまった。次話が決まらないので、此処まで書き進んだ段階における小生なりの総括を試みたい。

1 陸軍だけが悪かったのか？

陸軍悪玉、海軍善玉が定着した感があるが、今までの話題を通じて、陸軍は確かに悪かった、多くの過誤を犯した。海軍は必要以上に善玉論が流布されてしまった。問題が無かった訳ではない。所謂二元論から脱却すべきだ。二元論は非生産的だ。

2 軍隊のみが悪かったのか？ 軍に迎合し、或いは煽った勢力はなかったか？彼等の責任をも追及されるべきだ。責任転嫁ではなく、自らの責任を直視すべきだ。

3 日本の政軍関係は、日清・日露戦争までは機能したが、昭和期に至ると、政・軍を調整すべき元勳等の人材不足もあり、システムの包含する欠点が顕在化した。

4 一部の指導者の責に全てが帰せられるのか？

大戦略を立てられる人材は日本では育たないのか？真のエリート教育が為されていないのではないか？

5 米が悪かったのか？ 確かに米に追い詰められた感はあるが、追い詰められた側にも大なる判断ミスがあると云うべきだ。大戦略において日本は見劣りする。

6 独ヒットラーの本質を日本国民の殆どが見誤ったと思える。

7 大東亜宣戦を通じて信用ならない無道・非道な国家を列挙し得る。今もその本質は変わっていない。如何に付き合うか、考量すべきだ。

8 日本軍隊は精強無比であり、将兵は軍紀を遵守し、国を思い、家族を思って敢闘した。それは世界史上に燦然と輝いている。勿論、一部において許容し得ないケースがなかったとは云わないが、・・・

9 日本の意思決定：意見・主張の相違点を明確にせず、曖昧なままに言辞で誤魔化して当面を糊塗、爾後それが亀裂を生み拡大し、致命的となった。

10 何かをしなければ、今のままでは駄目だと思いつつも、重大局面を打開する策を決断し得ない。重大決断が出来るエリートの育成が肝要だろう!!

11 持たざる国は悲しい。故に精神力に過度に依存。少ない資源を分捕りあう愚。それを前提とした戦略こそが求められる。天佑神助に期待すべきではないのだ。

12 日本は果たして大東亜戦争を総括したのか？日本（人）の弱点や問題点を至当に摘出してそれを活かしているか？

13 確かに戦争は悲惨であり、可能な限り避くべきではあるが、自存自衛のために決然と立つことも有りうる。でなければ真の亡国となる。瘠せたソクラテスの方がまだ。

14 二正面、三正面作戦が愚策とは知りつつも、何故かそれに向かって突き進む愚。

15 積極・強硬論が大抵の場合、議論をリードして、消極論を圧倒、大勢となる傾向大

16 既定方針に捉われて、状況の変化に応じた柔軟な戦略転換等が困難だった。図体が大きいので当然と云えば当然だが、だがそれにしてももう少し柔軟性が欲しいと痛感。

17 刷り込まれた所謂「自虐史観」からの脱却には時間を要するようだ。

18 今日の我が国が享受している繁栄と平和は、大東亜戦争の尊い犠牲の上にあるのであり、英霊・戦没者への感謝と敬意を再確認すべきだ。そういう時代に我々は居る。

19 昭和以降の歴史（正史）を日本として確定すべきではないか？押し付けではなく自らの意思で歴史を確定すべきだ。

20 戦没者慰霊の国家施策化及び戦没者の帰還なくして日本の戦後は終わらない。そのような運動を起こすべき秋に来た。

(第百五十話 了)